

株式会社ゼンリンと災害協定を締結しました



1月12日(金)、株式会社ゼンリンと「災害時における地図製品等の供給等に関する協定」を結びました。

協定により、災害時の被害調査等に必要な町内の住宅地図を、備蓄品として町に提供いただいたほか、平常時から広域地図や住宅地図インターネット配信サービスが利用可能になりました。

もしもの際の迅速な初動対応と救援復旧活動につながることを期待できます。

みずかがみ食味コンクールで最優秀賞を受賞されました

近江米振興協会主催の平成29年度「みずかがみ」食味コンクールにおいて、日野町の小西正夫さん(西大路1区)が最優秀賞を、吉沢啓藏さん(中之郷)が優良賞を受賞されました。

このコンクールは近江米の中核品種である「みずかがみ」のブランド力向上につなげるもので、県内の農業者からたくさんのお米があり



小西正夫さん



吉沢啓藏さん

ました。その中でお二人ともひと手間もふた手間もかけて栽培されているお米であり、良食味が評価されたものです。

今後、日野町のおいしいお米を作っていたいただきたいです。受賞、おめでとうございます。

綿向生産森林組合が森林認証を取得されました

独立した第三者機関が環境・経済・社会の3つの側面から一定の基準のもとに環境に配慮した持続可能な森林経営を行っている森林または、経営組織が認証される、森林認証(SGEC認証)を取得されました。県内では2例目の認証となります。

今後は、綿向山を含む広大な組合所有林の管理において、生物多様性の保全や治山治水など水源涵養を含む森林の多面的機能の維持増進を図りつつ、生産森林組合の基本である循環型林業で、認証木材の販売に取り組まれます。



綿向生産森林組合
しまむら としお 組合長理事
嶋村 寿雄

6年後開催予定の滋賀国体には、建築・建設現場で県産木材の需要が見込まれ、今回の認証材PRも含め綿向生産森林組合で生産された木材が、より多く利用されるよう期待が膨らみます。

クラブキュピドン会員募集中！〜新しい季節に新しい出会いを〜

日野町婚活プロジェクト「クラブキュピドン」は、独身の男女の婚活を応援しています！
入会金・年会費は無料で、結婚を望む方に婚活情報やセミナー、パーティー、体験イベントなどをご案内しています。

会員になれる条件は？

年齢 男女とも20歳〜49歳まで

男性 日野町在住または在勤、もしくは結婚後日野町に住む意思のある方

女性 年齢要件のみ

【お申し込み】

左記の連絡先、企画振興課窓口(夜場3階)、QRコードから
お申し込みします。



◆ 問い合わせ先 ◆

企画振興課 企画人権担当

☎0748-52-6552

E-mail: kikaku@town.shiga-

hino.lg.jp

日野町におられる医師・歯科医師・薬剤師などの方々から町民の皆さんへ
医療や公衆衛生の面からアドバイスいただくシリーズです

滋賀県の健康寿命はさて何位？

……… もつり歯科 歯科医師 毛利典子もつりのりこさん

2017年発表の平均寿命について、滋賀県男性が全国1位の81.78歳とメディアに多くとりあげられたことは、昨年の嬉しいニュースです。男性1位ばかりが目立ちましたが、女性も実は全国4位の87.57歳。メディアはこの要因として喫煙率の低さや塩分摂取の少なさ、アクティブな人の多さ等を挙げました。

とは言え、周囲を見渡して見ると日野町ではタバコを吸う人、血圧が高い人が多かったり、移動も車でドアトゥドアだったり、あれれ？と思うこともあります。特に日野町は特定健診受診率が34%と低く、3人に1人くらいしか健診を受けていません。全国平均では50.1%、つまり2人に1人は受診しているのですが、歯科に関することになると、もっと低くなっています。

実はこの健診が「健康寿命」と関わってくるのです。「健康寿命」とは「平均寿命から介護期間を差し引いた日常生活に制限無く活動的に暮らせる期間」のことです。厚

生労働省の発表によれば、2013年ではありますが、滋賀県は男性が79.47歳で2位、女性が84.03歳で3位と、平均寿命に比べて短くなっています。健診を通じて日々の生活習慣を見つめ直すことで、健康寿命も長くなっています。と思っています。

また、医師、歯科医師、薬剤師の先生方が皆さんの健康アップをいつも考えてくださっていると思いますので、ご自身や家族に気になることがあれば、どんな小さなことでも相談してみてください。私の歯科医院にも「内科で相談したらこの腫れは歯が原因かもしれないと聞いた」と受診してくださいたりします。なんでも相談できる「心のかかりつけ」の先生を持っていたことが、健康寿命のアップに繋がるのでは、と思います。



もつり歯科 日野町日田105-1 ☎0748-53-2048

綿向雑感

2018年3月

日野町長 藤澤直広

早春の陽の光がキラキラと輝いています。春を呼ぶ恒例の日野ひなまつり紀行が2月11日(日)から3月11日(日)まで開催されています。2月は冷たい日もありましたが季節が進むにつれて暖かい陽射しがさすようになりました。町外や県外からもこれ散策をされています。今年も150軒を超えるお家でお雛様を飾っていただいています。飲食やお土産の販売、コンサートなどもてなしもあり、早春の暖かさとお雛様の微笑み、ひなまつり紀行を盛り上げようとする人達の気持ち心が安らぐ空間を醸し出しているのかもしれない。

観光協会の裏庭にある包装場では川内倫子かわうちりんこさんの写真展が行われています(4月1日まで)。日常にある何気ない風景や人々の営みが温かく描かれています。平成21年のNHK朝ドラ「つばさ」のタイトル写真も川内さんの作です。川内さんのお母さんの実家は日野町内にあり、子どものころよく来られたそうです。そんなご縁で協力いただくことになりました。

こうした心安らぐ「日常」が一挙に壊されたのが3・11東日本大震災です。あれから7年になります。人々の記憶が薄らいでいるようにも見えます。「着実に」復興している分野もありますが放射能汚染の影響や被災した原発への対応は先が見通せていません。核廃棄物の処理方法も確立しないまま原発を稼働させてきたこと、地震や津波によって取り返しのでない過酷事故に陥ることなど原発が人類の力で制御できないことが改めて確認されました。元首相の細川護熙ほそかわもろひろ氏や小泉純一郎こいずみじゅんいちろう氏が顧問を務める「原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟」は「原発ゼロ・自然エネルギー基本法案」を発表し、原発の即時停止や再稼働禁止、再生可能エネルギーの普及などを求めています。

梅の便りが聞こえてきます。3月は卒業の季節。子ども達が成長し新たな舞台へ巣立つてゆきます。温かく見守り応援したいと思います。この国もまた、原発から「卒業」し、自然と共生する国づくりを進めるよう力を合わせましょう。